

コミュニティ形成の葛藤

——BL 二次創作愛好家を事例に

本論文では、男性同性愛（以下 BL）の二次創作愛好者によるインタビューを通じて、BL 二次創作コミュニティがインターネット上においてどのように形成されているのかを明らかにした。ここでの「二次創作」とは、既存のマンガやアニメ、ゲームなどを基にした、ファンによる二次的な表現行為、およびそれによって生み出されたテキスト(石川 2007 : 87)を指す。

昨今ではインターネットの発達から作品投稿が容易になり、創作活動は拡大傾向にある。二次創作活動の拡大が進む一方、二次創作文化には「暗黙の了解」が存在する。特に BL 二次創作では「暗黙の了解」の文化が浸透している。二次創作 BL という要素を抱えているが故に同好以外の目から隠れなければならない一方、創作者の主な活動場所であるインターネットでつながりを持ちたいという愛好家たちのコミュニティ形成はどのようなものなのだろうかと考えた。

先行研究について、まず大戸・伊藤の研究(2020)では各人が腐女子としての活動をするに至った経緯に関してはあまり注目していない。参与観察法にてコミュニティに長期間所属していたことにより客観性が失われることが問題点として挙げられる。

また東はやおいコミュニティを「趣味が同じというだけで集まってきた人」である趣味縁の一つと見なした上で、やおいコミュニティを考えることが「有益な公共性」に繋がるか「仮初めの集合」止まりなのか判断しかねる状況にあると言う。「(東 2020 : 162-164)。このような、やおいコミュニティの実体が十分に把握されていないと推測できる言及からも、二次創作 BL 愛好家のコミュニティを客観的に調査する必要があると考えた。

問題を解決するためには、当事者である BL 二次創作コミュニティに属する愛好家の語りが必要になると考えた。そこで、本論文では BL 二次創作の作者 2 名と BL 二次創作を好む方 1 名へのインタビューを基に、インターネット上における BL 二次創作コミュニティがどのように形成されているのかを明らかにした。

第 1 章では BL 二次創作作品の発信について、BL 二次創作の作者から主に作品の投稿方法や BL 二次創作品を好まない人に向けた配慮の方法について明らかにした。作者の 2 名は共通して用途に応じて SNS やアカウントを分けており、フォロワーに流す自分の情報を分別することや情報の整理を目的としている。

第 2 章では BL 二次創作の作者と読者のコミュニティの作品共有の捉え方について、二次創作作品の共有方法や BL 特有の問題意識について明らかにした。仲間内での交流が多く、外部からより多くの評価を得ることにはあまり関心を示さないと推察する。

第 3 章ではインタビューの結果からコミュニティ形成の意義とコミュニティを形成する際の妥協点について考察を進めた。今回のインタビューの結果では、複数のアカウントや現実世界の仲間内だけのサークルを形成することで、インターネット上という基盤は開放的ながらも閉鎖的な空間で活動することが主立っていることが明らかになった。コミュニティを閉鎖的にさせるものは総じて危機感であり、危機感の発端は交流のような能動的な行動であると考察した。

本研究では BL 二次創作愛好者によるインタビューを通じて、BL 二次創作コミュニティがインターネット上においてどのように形成されているのかを明らかにすることを目指した。その結果、BL 二次創作愛好家は、インターネットで安全に活動するため閉鎖的なサークルを形成していることを明らかにした。